資料編

1　住民アンケート

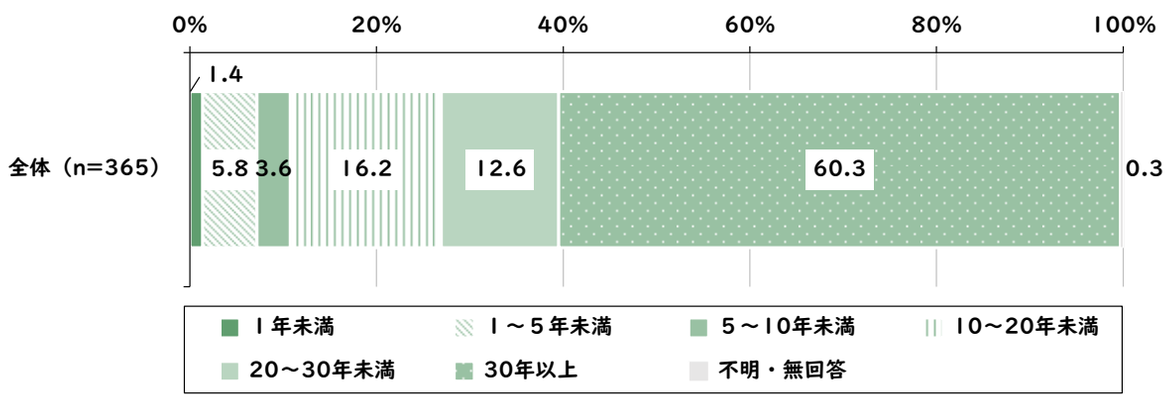
（1）調査概要

項目	内容
対象者	内子町在住の 16 歳以上の方 1,000 人（無作為抽出）
調査期間	令和５年９月 15 日（金）～10 月６日（金）
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式、WEB 回答方式
回収結果	365 件（36.5%）

（2）結果概要

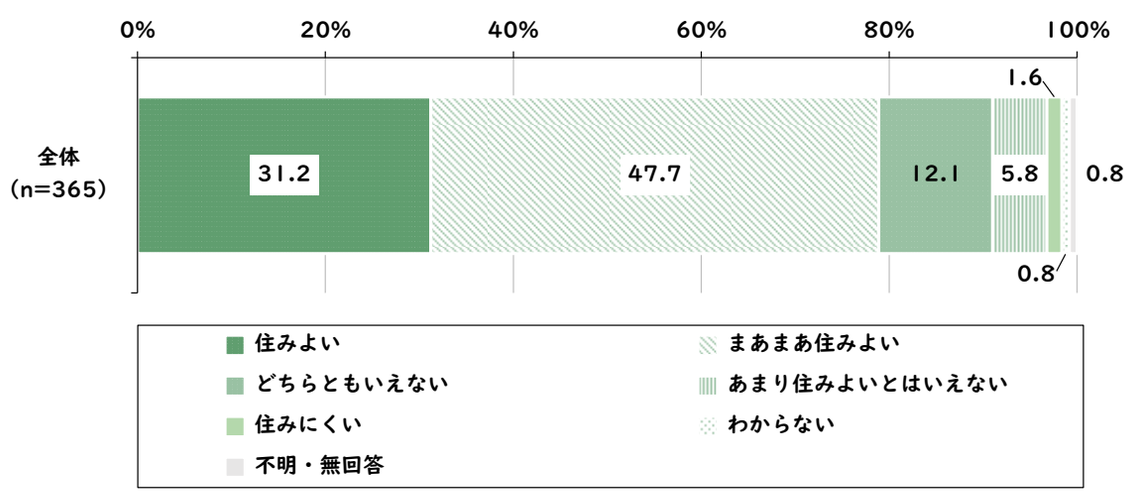
問　居住年数

居住年数についてみると、「30 年以上」が 60.3%と最も高く、次いで「10～20 年未満」が 16.2%、「20～30 年未満」が 12.6%となっています。



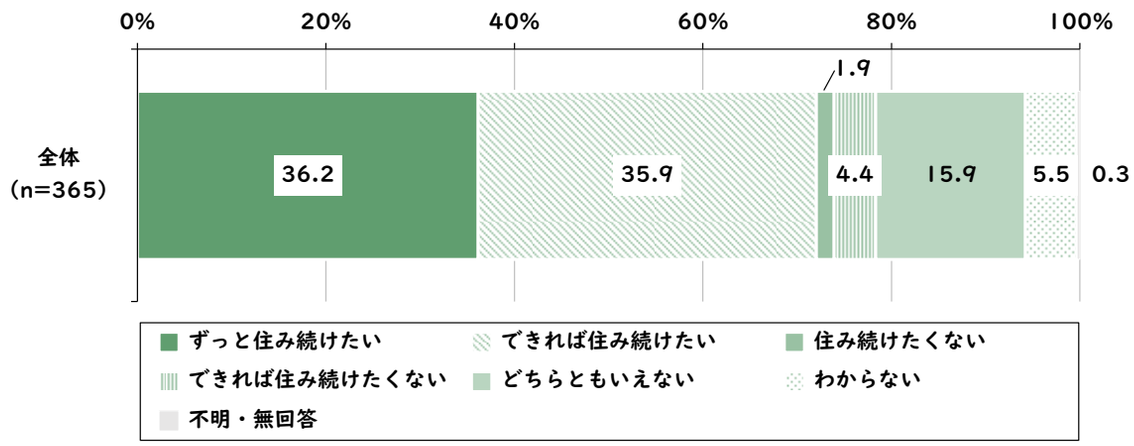
問　住みやすさ

内子町は住みよいまちかについてみると、「まあまあ住みよい」が 47.7%と最も高く、次いで「住みよい」が 31.2%、「どちらともいえない」が 12.1%となっています。



問　定住意向

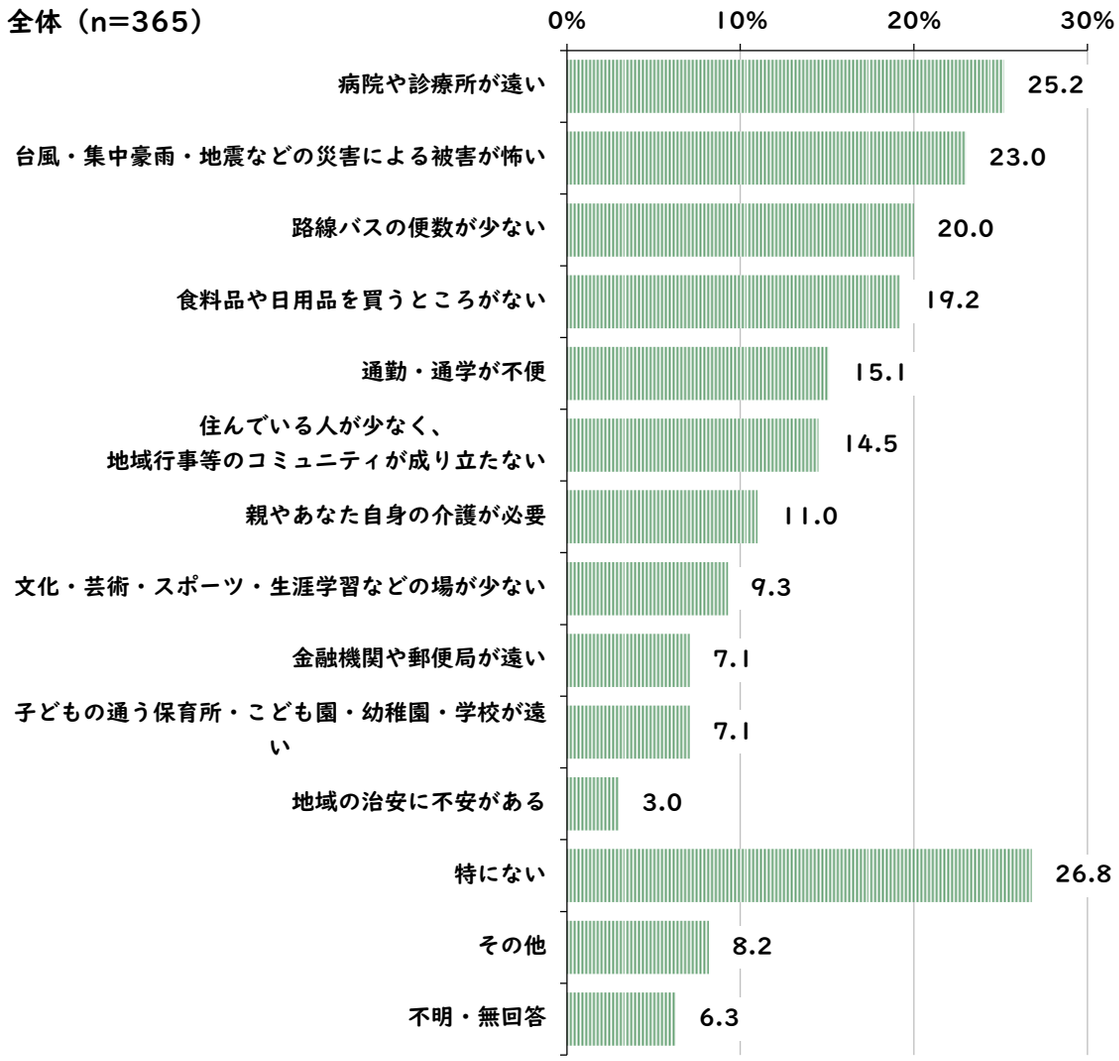
今後の居住意向についてみると、「ずっと住み続けたい」が 36.2%と最も高く、次いで「できれば住み続けたい」が 35.9%、「どちらともいえない」が 15.9%となっています。



住み続けたい理由 （複数回答　上位５つ）	住み続けたくない理由 （複数回答　上位５つ）
◆内子町に愛着があるから　59.3%	◆買い物に不便だから　56.5%
◆山・川などの自然環境に恵まれているから　52.5%	◆希望する仕事・収入を得る場がないから　47.8%
◆果物や野菜などのおいしい食べ物が豊富にあるから　42.6%	◆通勤・通学など、交通が不便だから　47.8%
◆親・兄弟姉妹などが町内にいるから（同居・近居しているから）　36.9%	◆近所づきあいなど人間関係がわずらわしいから　43.5%
◆近所づきあいなど人間関係がよいから　32.7%	◆飲食店や娯楽施設が少ないから　43.5%

問　生活上の困りごとや不安

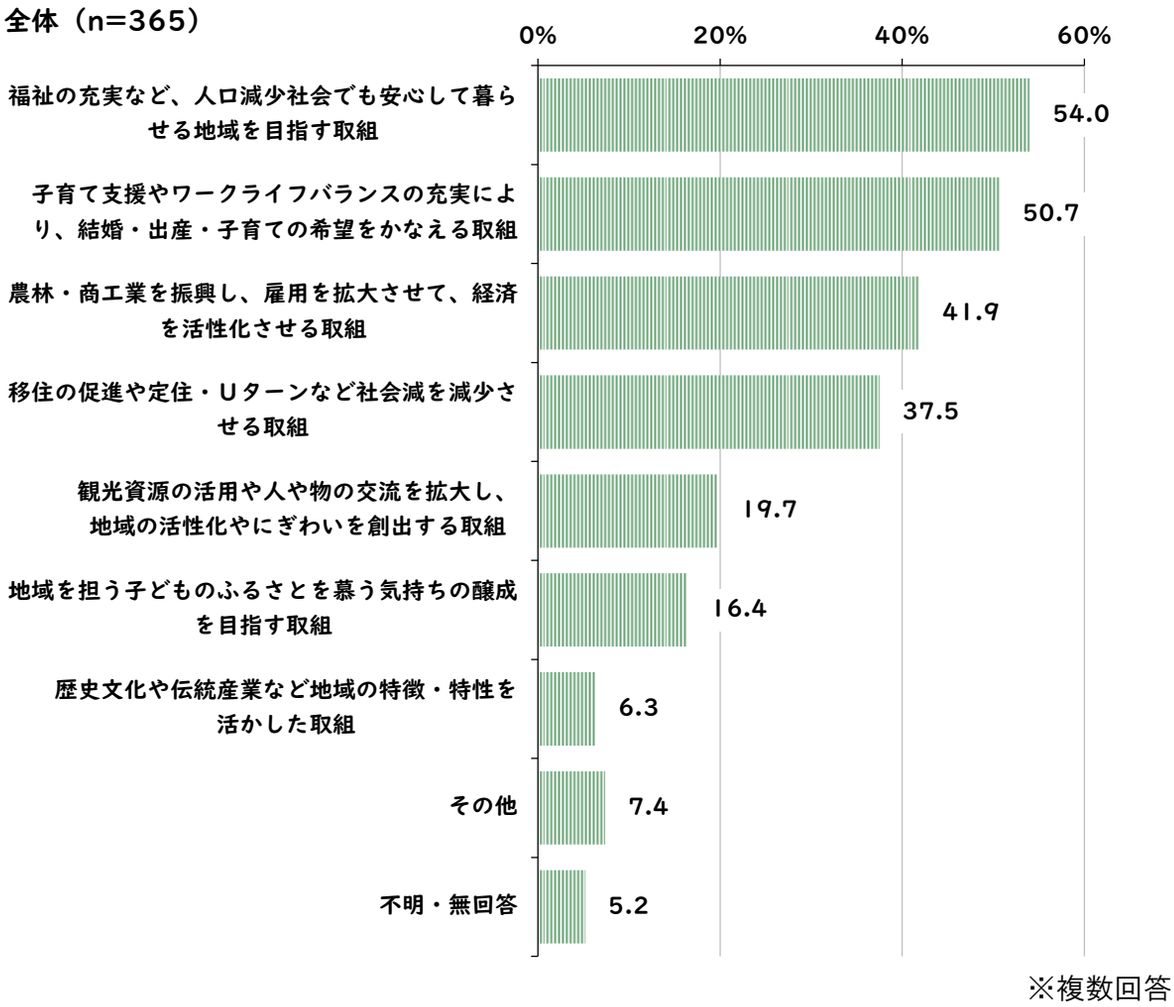
居住地域で生活するうえで困ることや不安なことについてみると、「特にない」が 26.8%と最も高く、次いで「病院や診療所が遠い」が 25.2%、「台風・集中豪雨・地震などの災害による被害が怖い」が 23.0%となっています。



※複数回答

問　今後内子町が取り組むべきこと

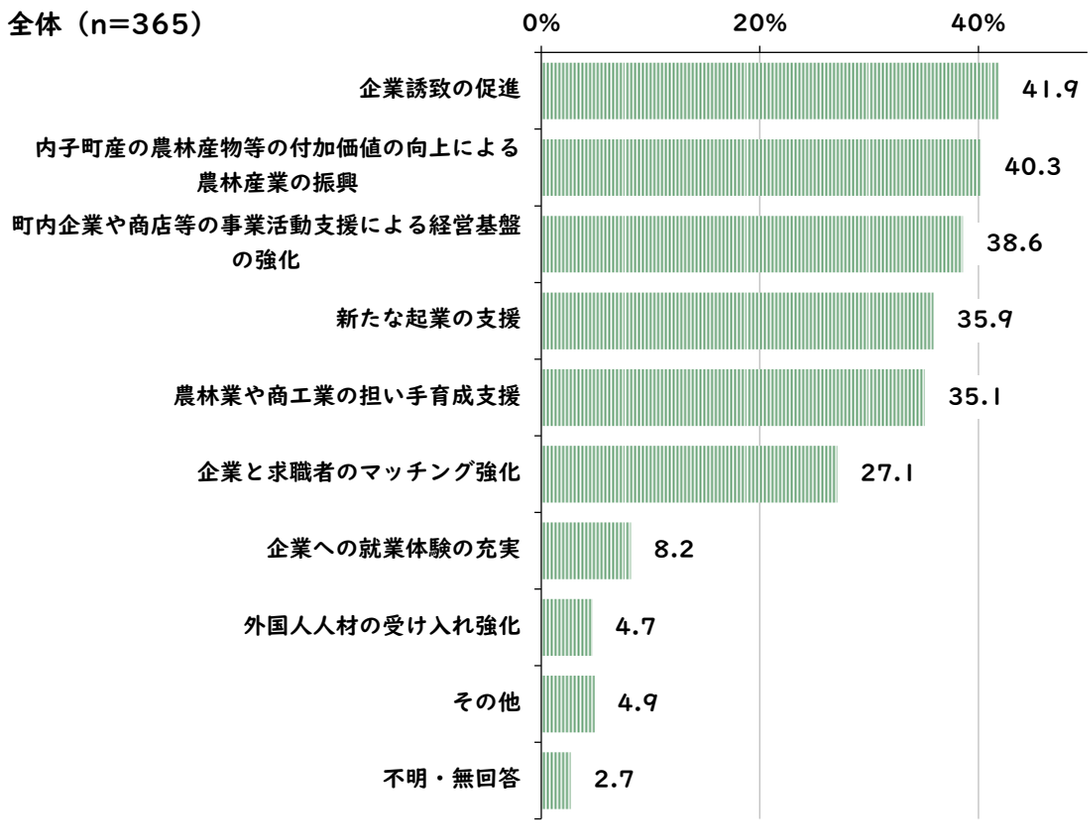
人口減少を克服し活力ある社会を目指すために、内子町が今後取り組むべきだと考えることについてみると、「福祉の充実など、人口減少社会でも安心して暮らせる地域を目指す取組」が54.0%と最も高く、次いで「子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が50.7%、「農林・商工業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が41.9%となっています。



※複数回答

問　雇用を増やすために取り組むべきこと

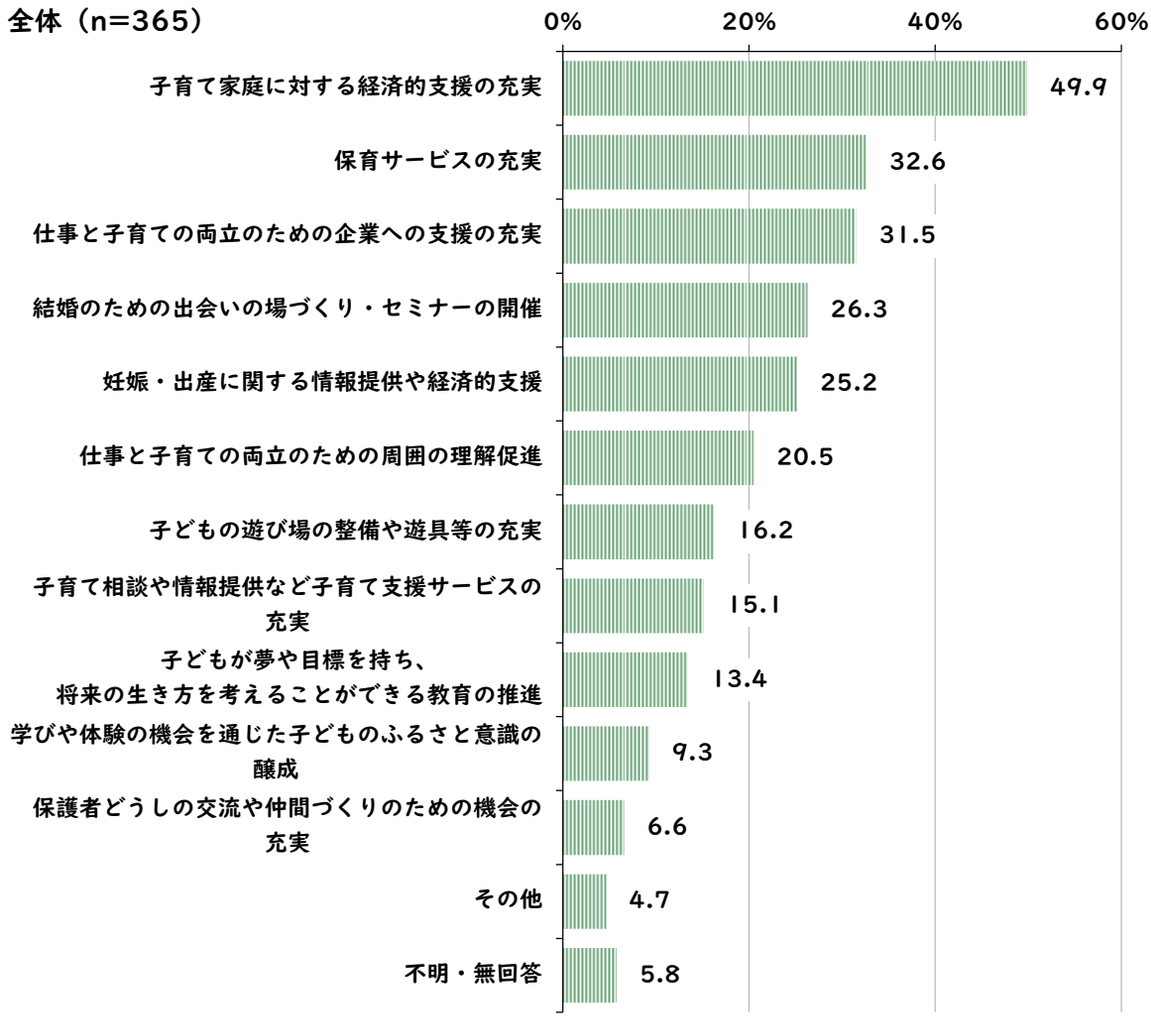
内子町における雇用を増やすために、力を入れるべきだと考えることについてみると、「企業誘致の促進」が 41.9%と最も高く、次いで「内子町産の農林産物等の付加価値の向上による農林産業の振興」が 40.3%、「町内企業や商店等の事業活動支援による経営基盤の強化」が 38.6%となっています。



※複数回答

問　子どもを産み育てる環境を実現するために取り組むべきこと

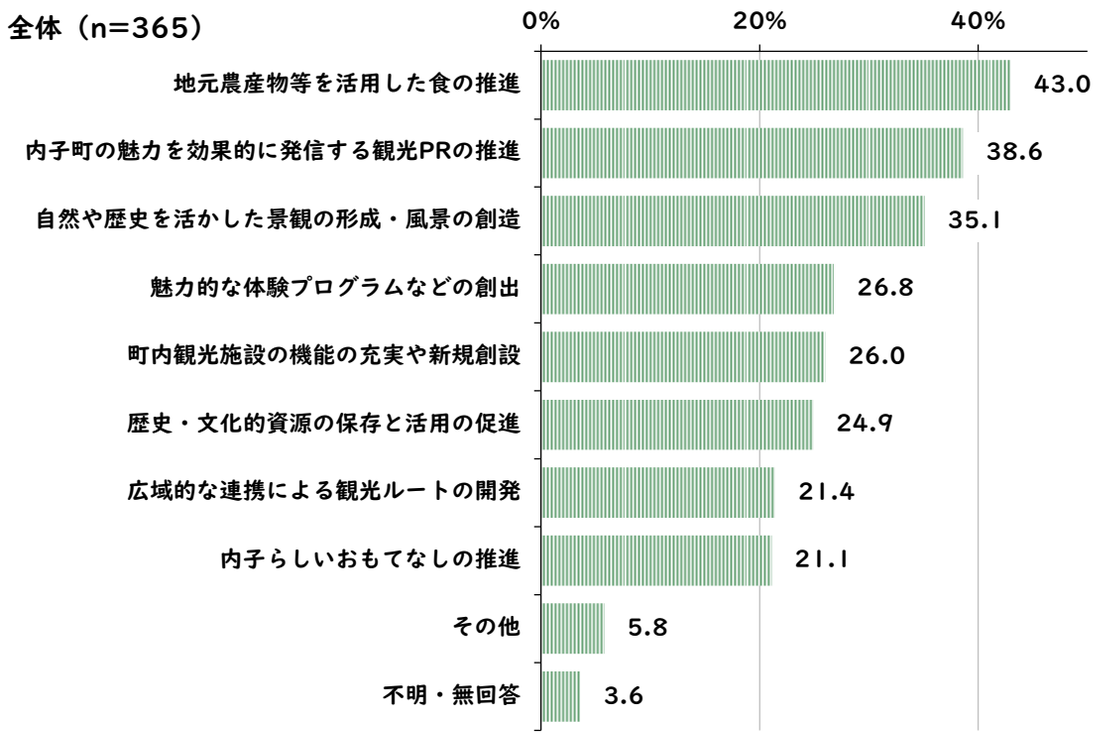
子どもを産み育てる環境を充実するために、力を入れるべきだと考えることについてみると、「子育て家庭に対する経済的支援の充実」が49.9％と最も高く、次いで「保育サービスの充実」が32.6％、「仕事と子育ての両立のための企業への支援の充実」が31.5％となっています。



※複数回答

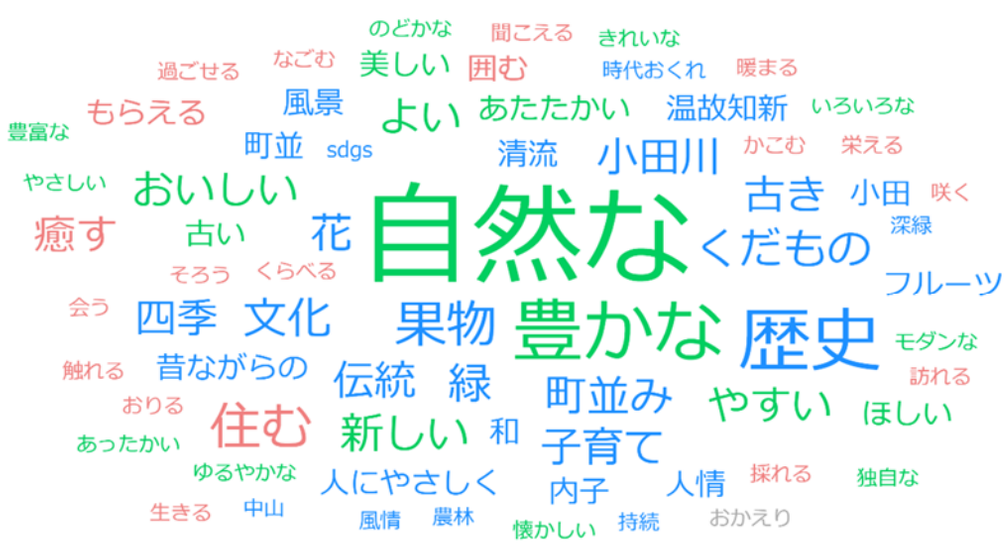
問　内子町を訪れる人を増やすために取り組むべきこと

内子町を訪れる人を増やすために、力を入れるべきだと考えることについてみると、「地元農産物等を活用した食の推進」が 43.0％と最も高く、次いで「内子町の魅力を効果的に発信する観光ＰＲの推進」が 38.6％、「自然や歴史を活かした景観の形成・風景の創造」が 35.1％となっています。



※複数回答

問　内子町をＰＲするために「○○の（な）町」と表現するなら（記述式）

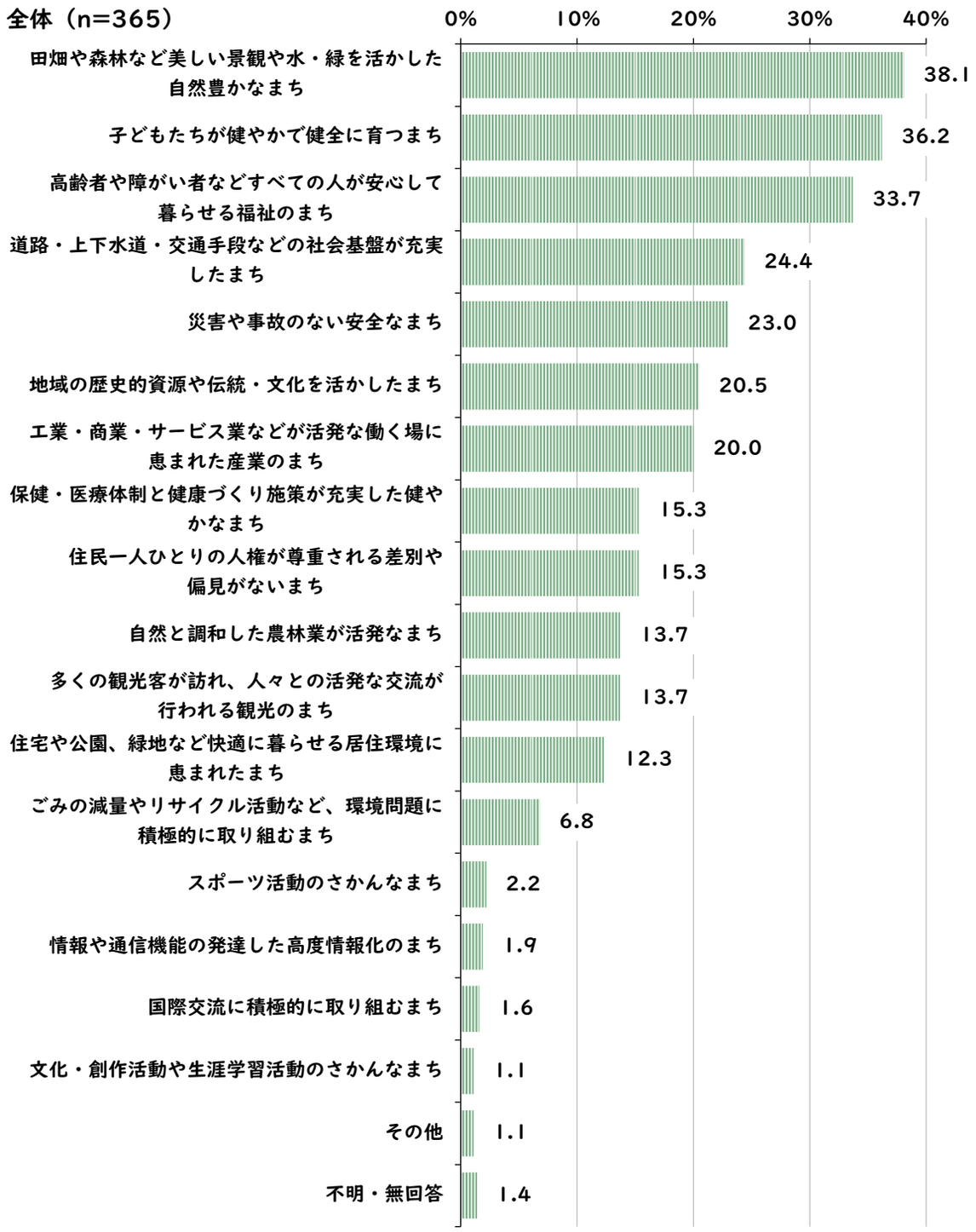


※出現頻度の高い言葉が大きくなっています。

※ユーザーローカル　テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）による分析

問　将来どのようなまちであってほしいか

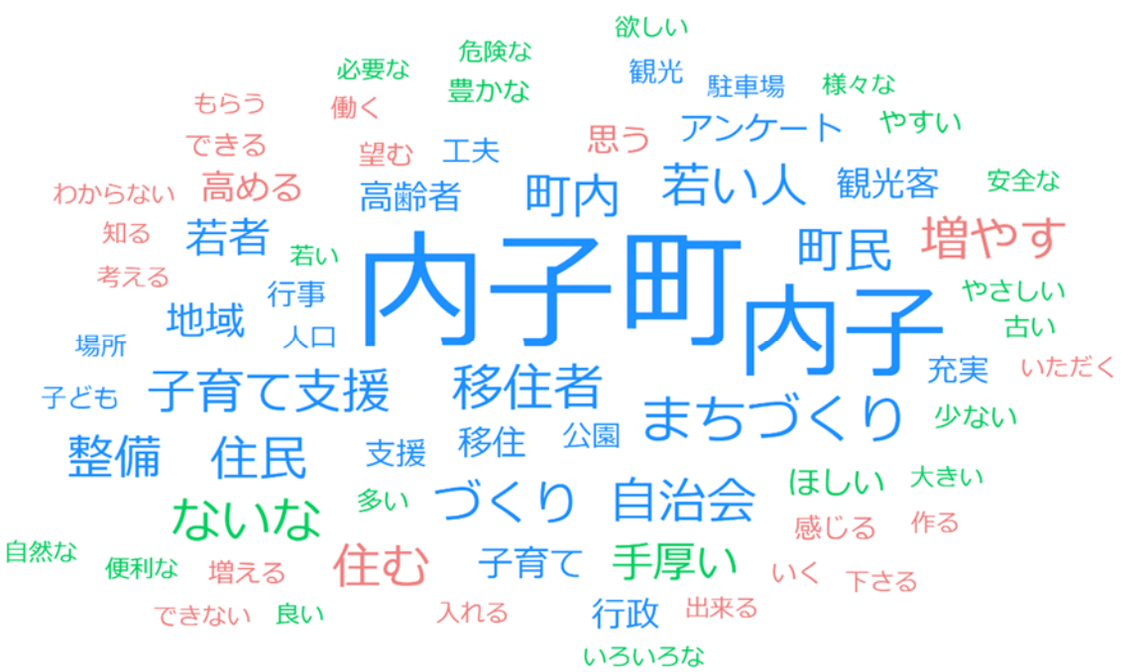
将来、内子町がどのようなまちであってほしいと思うかについてみると、「田畑や森林など美しい景観や水・緑を活かした自然豊かなまち」が 38.1%と最も高く、次いで「子どもたちが健やかで健全に育つまち」が 36.2%、「高齢者や障がい者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち」が 33.7%となっています。



※複数回答

自由意見

10～20 歳代（９件）	通学の便を便利に／イベント希望や公民館の開放／移住者をあたたかく積極的に受け入れる／子育て支援の充実（不妊治療の補助、遊び場の確保、医療の充実、経済支援等）　など
30 歳代（21 件）	経済支援／公園等の子どもの遊び場整備／インフラ整備／駐車場等の観光客受け入れのための整備／行政サービスの充実（手続きを手軽に）／若者が行動しやすい環境づくり　など
40 歳代（17 件）	移住者支援（住居と雇用の確保、医療や保育の支援策、地元の人が寄り添う環境づくり）／子育て支援の充実（医療費や給食費の無償化など）／学校の統廃合／飲食店の閉店時間が早い　など
50 歳代（17 件）	若者が地域に残り、活躍できるまちづくりを／産業や観光の強化、魅力発信／空き家の活用（犬猫の保護施設にする）／上水道の整備　など
60 歳代（18 件）	若者の町外流出への不安／若者が住みたいと思えるまちづくり（地元で活躍できるまちづくり、企業誘致等の雇用創出など）／高齢者の健康づくり（ダンス教室など）／道路や交通整備／災害に強いまちづくり　など
70 歳以上（17 件）	商店街の活性化／水辺の保全／より広義な移住者施策（若年層想定だけでなくある程度経済力を持った人やセカンド・ライフを考えている人へのアプローチ）／より多くの住民による“まちづくり”／若者が「内子が大好きだ」といえるまちになってほしい　など



※出現頻度の高い言葉が大きくなっています。

※ユーザーローカル　テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）による分析

2　20 歳のアンケート

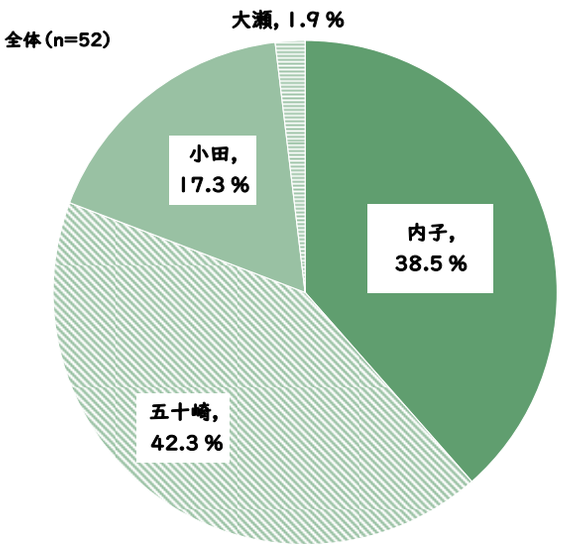
（1）調査概要

項目	内容
対象者	内子町 20 歳の記念式参加者（約 110 人）
調査期間	令和６年１月７日（日）～２月 29 日（木）
調査方法	WEB による配布・回答方式
回収結果	53 件（約 48.2%）

（2）結果概要

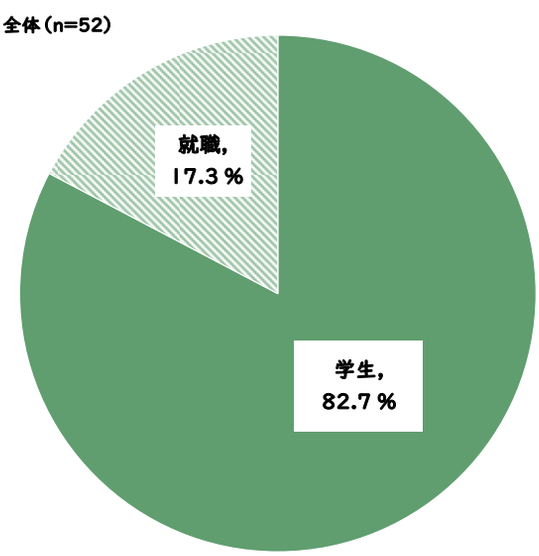
問　出身エリア（中学校区）

回答者の出身は、42.3%が「五十崎」、38.5%が「内子」、17.3%が「小田」、1.9%が「大瀬」でした。



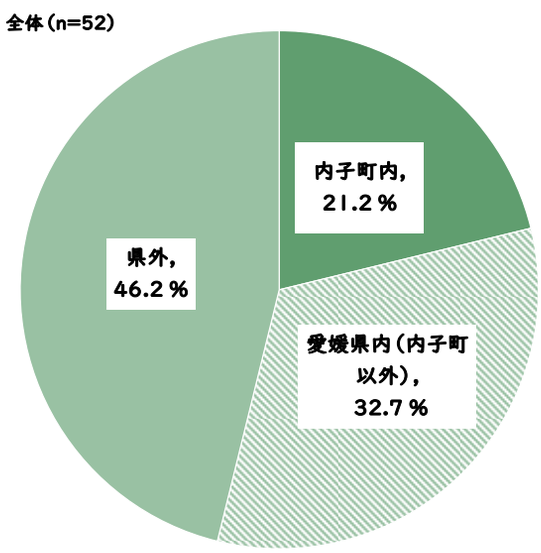
問　現在の状況

現在の状況についてみると、「学生」が82.7%、「就職」が17.3%となっています。



問　現在の住まい

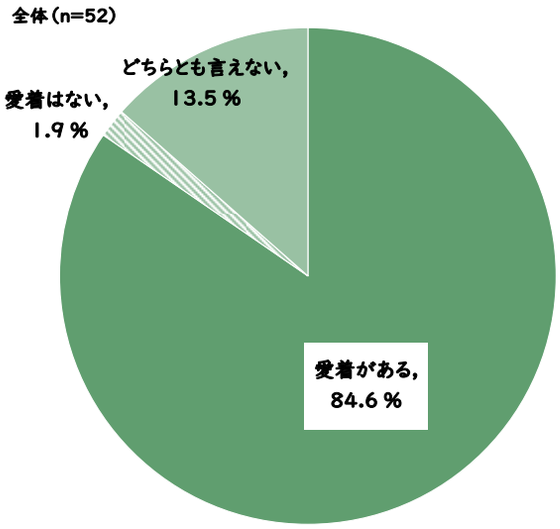
現在の住まいは、「県外」が46.2%と最も高く、次いで「愛媛県内（内子町以外）」が32.7%、「内子町内」が21.2%となっています。



問　愛着について

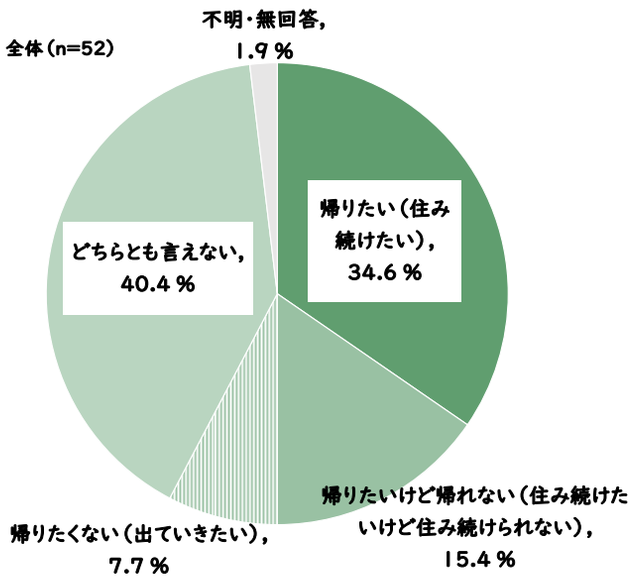
内子町への愛着についてみると、「愛着がある」が84.6%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が13.5%、「愛着はない」が1.9%となっています。

自然　人が優しい　町並み　景色
美味しい食べ物　友だち　落ち着く
などが、愛着があるところとして挙げられました

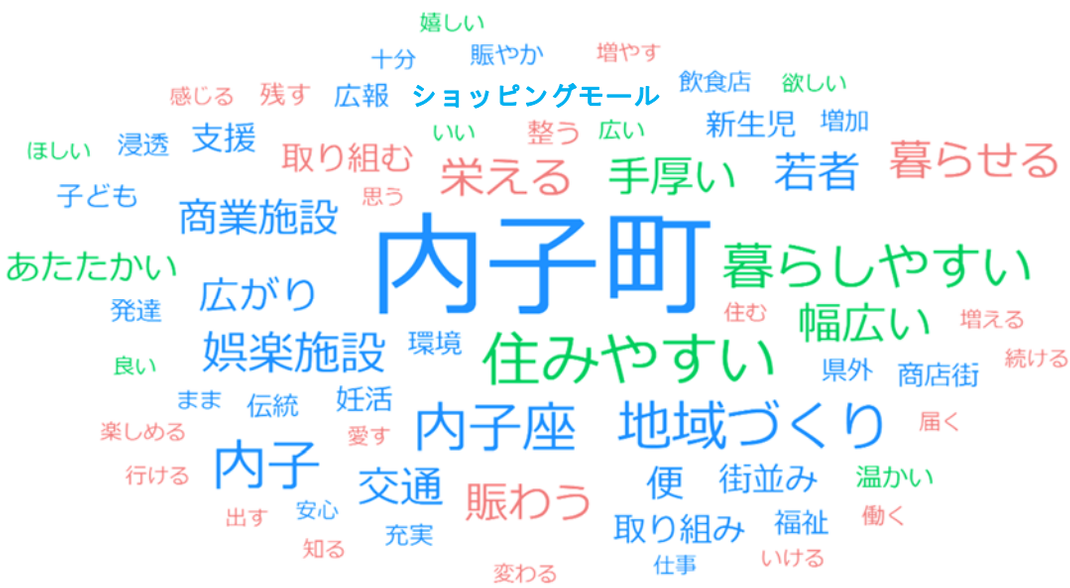


問　将来的な定住意向

将来、内子町に帰ってきたいかどうかついてみると、「どちらとも言えない」が40.4%と最も高く、次いで「帰りたい（住み続けたい）」が34.6%、「帰りたいけど帰れない（住み続けたいけど住み続けられない）」が15.4%となっています。



問　将来、どんな内子町であれば、帰りたい・住み続けたいか



※出現頻度の高い言葉が大きくなっています。
※ユーザーローカル　テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）による分析

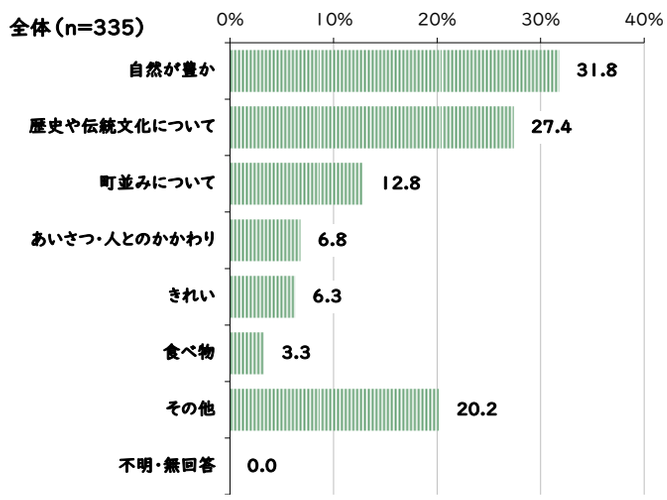
3　まちづくり中学生会議

（1）実施概要

項目	内容
目的	「内子町総合計画」について中学生に知ってもらい、内子町の課題や将来像について考える機会を提供することで、若者のまちづくりへの関心を高め、まちづくりに参画する主体的な若者の増加を図る。
テーマ	いつまでも内子町で安心して暮らしていくことができるよう、まちが直面している喫緊の課題である人口減少問題について、以下の４つの切り口（「出生増」「死亡減」「転入増」「転出減」）でテーマを設定 出生増　「内子町を子育てしやすい町にするにはどうしたらいい？」 死亡減　「内子町でいつまでも元気で暮らすにはどうしたらいい？」 転入増　「内子町に引っ越してくる人を増やすにはどうしたらいい？」 転出減　「内子町から他の町へ引っ越す人を減らすにはどうしたらいい？」
対象	町内中学校（４校）の生徒会　20 人　　※事前アンケートは全中学生
開催日	令和５年　10 月４日（水）

（2）事前アンケート結果

問　町外の人に内子町を紹介するとしたら



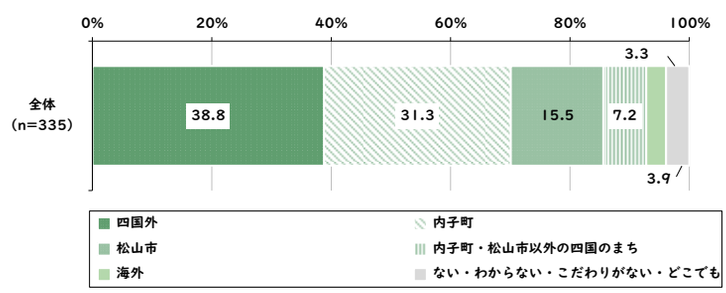
問　内子町の好きなところ

複数回答（n=335）

1位	自然（31.8%）
2位	人が優しい（23.5%）
3位	町並み（11.3%）
4位	暮らしやすい（9.2%）
5位	歴史（6.8%）

問　将来住みたい、住んでみたい場所

将来住みたい、住んでみたい場所についてみると、「四国外」が 38.8%、「内子町」が 31.3%、「松山市」が 15.5%となっています。



（3）まちづくり中学生会議　まとめ

内子町を子育てしやすい町にするにはどうしたらいいか

・助け合いができる町
　親に負担がかからないようにしてはどうか（働きながら協力する、遊び場所をつくる、使わなくなったものをゆずりうける、おさがりを次の世代へゆずる、ベビーカーなどをおさがりバザーに出す、スーパーの中に遊び場をつくるなど近所で協力しあう）

内子町でいつまでも元気で暮らすにはどうしたらいいか

・シニア世代のスポーツクラブを作るなど、お年寄りと関わる機会を増やしてはどうか
・憩いの場を設けてはどうか
・病院に長期間入院できるようにしてはどうか
・広報に出してはどうか
・日常会話ができそうな場所をつくってはどうか

内子町に引っ越してくる人を増やすにはどうしたらいいか

・特徴的な公園をつくってはどうか。不可能であれば運営してくれる企業を誘い、そこで働く人と、公園に興味をもつ人を増やしＩターンを確保すればどうか
・内子以外の子や不登校生が学校からでも参加できるオンライン授業をしてみればどうか
・インターネットなどで内子町を知ってもらってはどうか
・自然、文化、伝統を残す活動をしてはどうか
・体験できることを増やしてはどうか
・交通の便をよくしたり、環境を整備してはどうか

内子町から他の町へ引っ越す人を減らすにはどうしたらいいか

・30 代や就職活動中の人のために職を増やしてはどうか
・子育て支援の方法を考えてみてはどうか
・冬のイベントを増やしてはどうか
・インスタなどの SNS で内子らしさを発信してはどうか
・スマホなどで交通手段を手軽に利用できる方法を考えてみてはどうか

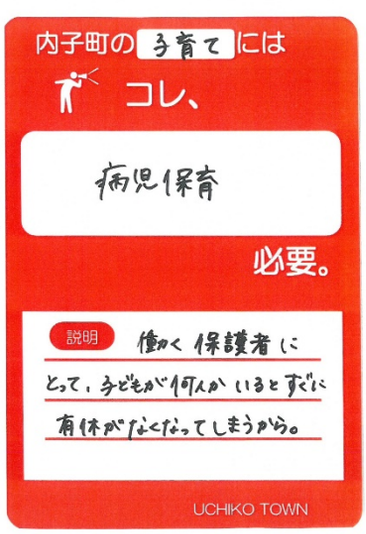
4　住民ワークショップ

（1）子育て分野

項目	内容
テーマ	いつまでも内子町で安心して暮らしていくことができるよう、未来の地域の姿を思い浮かべながら、内子町で子育てしてくうえでの意見を出し合う 「内子町で子育てしていくうえで必要なもの・こと」
参加者	内子町在住の子育て世代　11 人
開催日	令和５年　11 月 30 日（木）

【内子町の子育てに必要なもの】

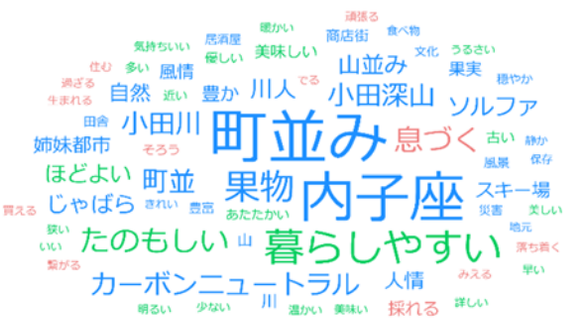
- **わかりやすい情報提供**
- **親も子も安心して遊べる施設（安心してボールで遊べる場所）**
- **病児保育**
- **学童保育の延長（６年生まで）**
- **保育機関の（保育士）の充実**
- **ごみ収集の見直し**
- **病院（皮膚科・耳鼻科等）**
- **小児救急の受け入れのある病院（休日や夜間も）**
- **保育料、教育費無料**
- **放課後デイサービス**
- **補助金やお祝い金等の充実**



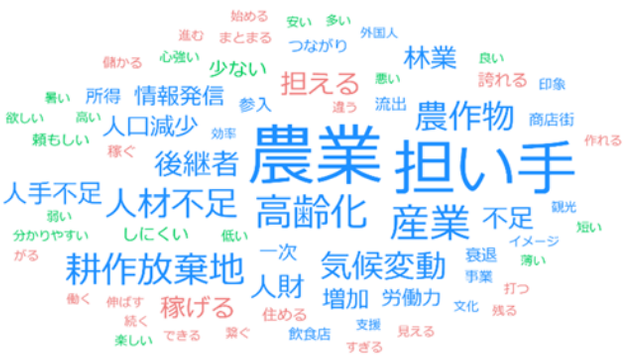
（2）産業分野

項目	内容
テーマ	安心して暮らし続けるまちであるために、地域の良いところや課題、課題を解決するための解決策等について話し合う 「10 年後の内子町に 目指してほしい まちの姿」
参加者	産業分野関係者　約 30 人
開催日	令和５年　11 月 30 日（木）

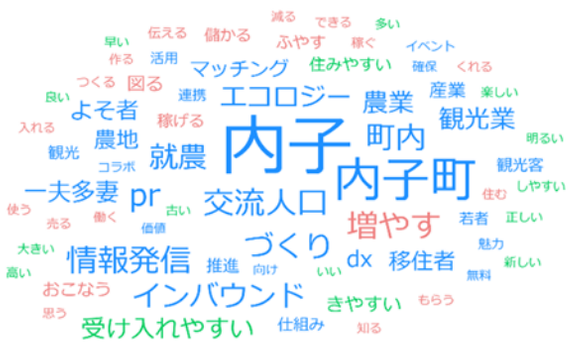
【内子町の好きなところ】



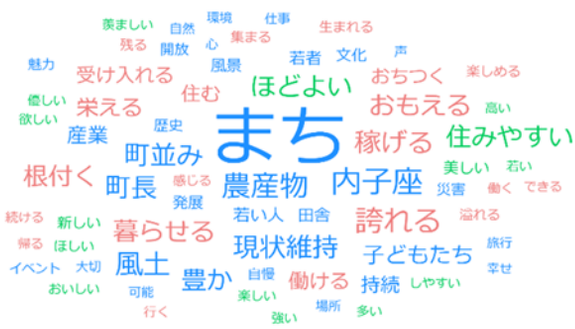
【内子町の現状・課題】



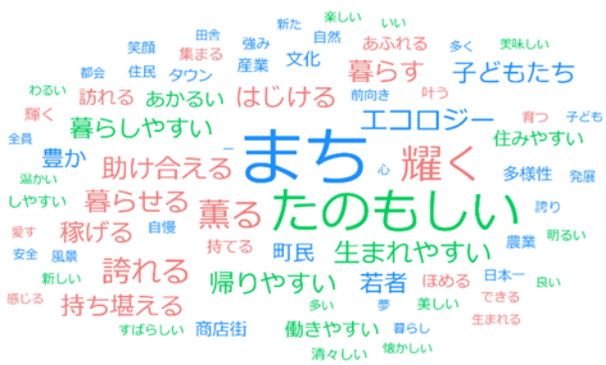
【内子町の解決策】



【内子町に今後目指してほしいまち①】



【内子町に今後目指してほしいまち②】



※出現頻度の高い言葉が大きくなっています。
※ユーザーローカル テキストマイニングツール（ https://textmining.userlocal.jp/ ）による分析

5　分野別職員ワーキングチーム

【活動内容】

分野別に９つのワーキングチームを設け、各チームに与えられたキーワードに対して、以下のプロセスで現状把握から方向性の立案までを行いました。

全体会　　令和５年９月６日（水）

役場職員からなる９つの分野別ワーキングチームを設け、主に基本計画についての検討を進めました。

第１回の全体会では、ワーキングチームの進め方について説明を受け、ワーキングチームごとにワークショップやキーパーソンヒアリング、視察等を実施していくことを確認しました。

SDGs 学習会①　　令和５年９月６日（水）

講師に納堂由美子氏をお招きし、「SDGs で考える　持続可能で公正な町づくり」と題した学習会を行いました。SDGs の基本的な考え方を学んだほか、総合計画に SDGs をどう取り入れるかグループワークを行いました。

SDGs 学習会②　　令和５年 10 月６日（金）

講師に愛媛大学小林修教授をお招きし、「SDGs をヒントに内子の課題を可能性に転換することを目指す！」というテーマで学習会を行いました。SDGs の考え方と具体的なまちづくり施策との関連の仕方など事例を交えて学びました。また、「地方創生 SDGs ローカル指標リスト」を参考に現状の課題と逆転の発想についてグループワークも行いました。

中間報告会　　令和５年 12 月 27 日（水）

各チームの分野別キーワードごとに SWOT 分析やキーパーソンヒアリングを行って見つけ出した課題を報告しました。

報告後は、出席した理事者や課長等からワーキングチームに対し基本計画を策定していく上でのポイントなどの助言がありました。

最終報告会　　令和６年３月 28 日（木）

中間報告会後、ワーキングチーム内で協議を重ね、各分野で今後必要と考えられる施策案を報告しました。出席した理事者や課長等からは評価・助言などがありました。

【ワーキングチーム】

	キーワード	チームメンバー所属課
【１】	移住、子育て、内子高校、小田分校	住民課、保健福祉課、 こども支援課
【２】	健康、医療・救急、福祉（高齢者や障がい者など）、交通	保健福祉課
【３】	農業・林業、商工業、商店街、からり、せせらぎ	農林振興課、町並・地域振興課
【４】	インフラ整備、防災力、災害時の体制・対応、消防	総務課、建設デザイン課、 小田支所
【５】	環境、景観、歴史的風致	総務課、税務課、 環境政策室
【６】	観光、歴史的資源（建造物、行事、技術等）	町並・地域振興課
【７】	自治会・コミュニティ、生涯学習	自治・学習課、小田支所
【８】	教育、国際交流、宜野座村との交流	総務課、学校教育課
【９】	ICT、DX	総務課、会計課、税務課

6　策定経過

年月日	内容	
令和５年 ８月 17 日（木）	令和５年度 第１回総合計画審議会	・諮問 ・策定スケジュール
９月６日（水）	分野別職員ワーキングチーム 全体会	・オリエンテーション
〃	分野別職員ワーキングチーム SDGs 学習会①	「SDGs で考える持続可能で公正な町づくり」 講師　納堂由美子氏
９月 15 日（金） ～10 月６日（金）	住民アンケート調査	・対象：内子町在住の 16 歳以上の方 1,000 人（無作為抽出）
10 月４日（水）	まちづくり中学生会議	・対象：町内中学校（４校）の生徒会 20 人 ・人口減少問題に対する意見出し（ワークシート方式）
10 月６日（金）	分野別職員ワーキングチーム SDGs 学習会②	「SDGs をヒントに内子の課題を 可能性に転換することを目指す！」 講師　愛媛大学教授　小林修氏
11 月 16 日（木）	内子高等学校小田分校 インターンシップ	・対象：インターンシップの生徒８人 ・人口減少問題に対する意見出し（ワークシート方式）
11 月 30 日（木）	住民ワークショップ	・対象：子育て世代、産業分野関係者
12 月 27 日（水）	分野別職員ワーキングチーム 中間報告会	・中間報告（基本計画案）
令和６年 １月７日（日） ～２月 29 日（木）	20 歳のアンケート調査	・対象：内子町出身の 20 歳（約 110 人）
３月 28 日（木）	分野別職員ワーキングチーム 最終報告会	・最終報告（基本計画案）
５月 21 日（火）	令和６年度 第１回総合計画審議会	・策定経過報告 ・基本構想（案）の答申
８月 19 日（月）	内子町議会 全員協議会	・基本構想（案）の説明
９月 26 日（木）	内子町議会 ９月議会定例会	・基本構想（案）の議決

【内子町総合計画審議会委員】

任期：令和５年４月１日～令和７年３月31日

（敬称略・順不同）

	所属	氏名	分野
会長	愛媛大学社会共創学部　副学部長、教授	井口　　梓	学識経験者
副会長	内子町自治会連絡会　会長	西口　邦彦	住民組織
委員	内子町観光協会　会長	大西　啓介	産業
	内子町商工会　会長	池田　　央	産業
	内子町商工会　女性部長	細川美穂子	産業
	内子町森林組合　専務	大鍋　直幸	産業
	農業（認定農業者）	大程奈々絵	産業
	内子町社会福祉協議会　会長	堀本　増隆	福祉
	内子町教育委員会　教育長職務代理者	横田　光敏	教育
	内子町 PTA 連合会　副会長	中岡　理恵	教育 ※令和６年５月交代
		尾花慎太郎	
	伊予銀行内子支店　支店長	梅野　政彦	金融機関 ※令和６年４月交代
		秋山　敏夫	
	愛媛銀行内子支店　支店長	大砂　弘樹	金融機関 ※令和６年４月交代
		井口　　聡	
	ケーブルネットワーク西瀬戸　制作編成部長	城戸　輝芳	報道

２０２５-２０３４

第３期内子町総合計画

内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略

発　行　　令和７年３月
発行者　　愛媛県　内子町
編　集　　内子町　総務課　政策調整班
〒795-0392
愛媛県喜多郡内子町平岡甲 168 番地
TEL　0893-44-2111

2025-2034

第3期内子町総合計画

内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略